

## △△△現職員による座談会△△△

# 50年を回顧し将来を思う

日 時 1989年7月23日(日) 午前10時~午後2時

場 所 芦屋市民センター

出席者 [旧職員]

金坂 豊 (国語 S 15~33)  
福田政次郎 (理科・教頭 S 16~31)  
空谷 舜造 (国語・S 19~37)  
福山 敏郎 (数学 S 23~32)  
中西 清 (美術 S 23~38)  
曾谷 愛子 (家庭 S 24~29)  
奥田竹四郎 (英語 S 25~56)  
津本 明男 (数学 S 25~58)

[第14代校長]

吉田 弘 (数学 S 63~H 1)

[現職員]

高木 正浩 (体育 S 46~H 1)  
小西 征正 (社会 S 52~ )

[司会]

武岡 徹 (音楽 S 56~ )

[編集・記録]

藤原真知子 (国語 S 56~ )

[写真撮影]

井上 浩 (社会 S 56~ )

※ ( ) 内は担当教科・芦高在職期間年度を示す

司会 今日は、大変暑さの厳しい中を、また、お忙しいところ、先生方にお集りいただきありがとうございます。

芦屋中学発足当時から、お教えいただいた先生方が、お元気でご出席下さり、創立50周年記念誌のための座談会を開けますことをうれしく思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

では、はじめに校長のあいさつからお願ひします。

校長 先生方、お早うございます。私、現在校長をさせていただいております吉田でございます。

今日は、来年50周年を迎えるということで、今、担当者に50周年記念誌をまとめさせているわけですが、その中に、旧職員・現職員による開校の座談会を計画しておりまして、先生方には非常にお忙しい方もおありだと存じますが、今日はわざわざお集まりいただき、本当にありがとうございます。

私は、着任致しました時に、実は芦屋高等学校は、まだ50周年を迎えていないということを知りまして、非常に驚いた記憶がございます。それほど、芦

屋高等学校は名門の名を恣にしているのではないかと思います。

現在はどうかというと、昔ご勤務いただいた先生方からすれば、恐らく「しっかりしてほしい」というお気持ちもおありだろうかとも思いますけれども、それはさておきまして、今日のこの会が有意義に行われますようによろしくお願い致したいと思います。

簡単でございますけれども、ちょっとご挨拶させていただきます。



武岡先生

吉田先生

## 第1部 芦屋中学創立から新制芦屋高校 の発足をへて昭和30年ころまで

### 芦屋中学時代——学校生活、生徒の気風など

司会 昭和15年の4月12日に、第1回の芦屋中学の入学式が行われたという記録がございますが、芦屋中学発足当時の学校生活、授業や生徒の気風・行事等について、金坂先生、お話を聞えませんでしょうか。

金坂 私が芦屋に来ましたのは創立当時、といいましても、前任校の後任の関係で、実際に来ましたのは5月15日なんです。本当に創立の時の一番大変だった頃は、神保先生、乾先生あたりが一番ご苦労なさったようでしたけれども……

私が参りました時には、一応形態が整っておりました。岩園小学校の鉄筋校舎の西側教室を、職員室兼事務室1教室と、教室として5教室借りていたわけです。

芦屋川で降りまして、「芦屋中学校はどこですか」と聞いたら、山手小学校を教えてくれましてね。それで山手小学校へ行ったら、「そこじゃない、岩園だ」と言われまして、それが私の最初赴任した時の状態でした。今の六麓荘の方へあがるバス道に添うて、西側に門があります。そこに、「県立芦屋中学校」という表札が立っております。それから、職員室へ入ったら、職員室も事務室も一部屋で、(当時、山本校長でしたが)校長室も事務室もみんな一緒に、本当にそういう点では、家族といった感じですね。

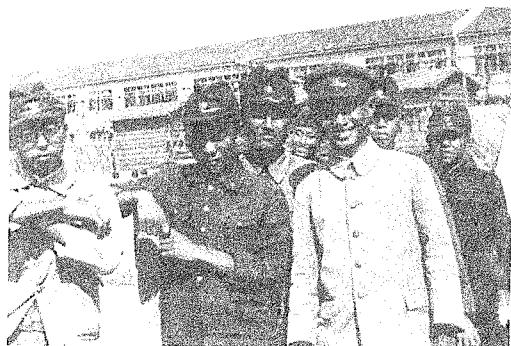
「新設校だから、まあ、しっかりやってくれ。生徒の質はあまりよくないぞ」ということを、県の学務課では言われてきたんですけど、実際には、それまで私が紀州の田舎の学校に居たせいで、ほんとうに洗練された生徒だなあという感じがまず第一印象でしたね。また、言っていたよりはかなりできる子が多いということを感じました。しかし、当時は、いわゆる“芦屋の坊ちゃん学校”にしてはいけない、なるべくやばな学校にしあげたいというようなことを山本校長が言っておられた。

その当時、勿論家主は岩園小学校ですから、小学

校の運動場を使うわけにいきませんので、バス道を隔てた川の向こうの、(住宅地にするためでしょうか)三段に整地された所、(これが芦屋中学校の運動場になっていますけれども)その第二段目の平らにした所で就任式があったのを憶えております。

当時の生徒はよく勉強もしましたがよく遊びました。こっちも若かったものだから、この三段になつた運動場で生徒と一緒に野球などもしましたし……だから、職員生徒一体という感じが非常に強かったです。

また、とにかく神戸一中を追い抜け、追い越せというのを目標にして、しっかりと鍛えてくれと言われていた。だからかなり厳しく勉強の方もやりました。井田先生、神保先生、伊藤常吉先生あたりが随分生徒を試験でしばっておられたので、私も、その当時から小試験をさかんにやったものです。小試験というのは予習や復習箇所を予告しておかないとです。そして点が悪いと(当時坊主頭でしたから)チョークで頭に丸を描いてコツンとやったんですから、(笑い)……そのために頭が禿げたなんて、同窓会に出たびによく言われますけど。(笑い)しかし、生徒の方もそれを素直に受けられましたし、こちらの方も癪に触ってやるんじゃない、「しっかりせいよ」というのでコツンとやった。そういう気持ちちは自然に通じていたと思います。



校舎を背景に“我れ等が芦中時代”

岩園には二年居りましたが、二年目には、5学級増えたから、かなり北側の、教室としては不向きな所を教室にもらいましてね。芦中としても随分苦しいところでしたが、その辺から福田先生もご存知ですけれども……。2年になると理科教室も要りますし、岩園の方にも随分迷惑をかけたようです。

三年目に打出の校舎へ移転して、本当に学校らしくなったなあという感じでした。移転した当時、夏など浜まで裸で水泳に行ったりするという楽しい思い出も残っております。

あの当時のような先生と生徒とが一体になった気持ちがその後も続いていたら、本当にすばらしいんじゃないかな、と思います。近頃の学校というと、なにか寂しい気がしますけれども……。芦屋中学には、高校になってからも19年お世話になったんですが、非常に大きな変わり目というと、第8回生から、つまり新制中学を出てきた生徒になってから、なにか気風ががらっと変わったような気がします。7回生までは、忌憚の無いことを言えば、非常におもしろくやりましたわ。それ以後はどうも画一的になつたような気がします。

### 現在の校地に移るまで

司会 福田先生は開校二年目の昭和16年にご着任なさっておられます、岩園小学校から三年目には打出の仮校舎に移り、芦屋中学・芦屋高校は、校舎の問題では不遇だったように聞いているんですが、そのあたりを中心に当時のお話をお願ひいたします。

福田 私は昭和16年9月5日に芦屋中学校に着任しました。精道村から芦屋市になって間もない頃でした。15年2月に文部省から芦中設置の認可が下りた時の予定地として、長谷川さんという方のお持ちの土地1万6千坪の中の1万坪を芦中の校地にすることが、精道村村会で決定されておりました。

この学校に赴任した時、山本校長からお聞きしたことは、校舎・校地は六甲中腹の芦屋天神の裏手を予定地とし、建物はこの設計図のようになります。誠に堂々たる新校舎建設の構想に心を碎いておられました。しかし時局はいよいよ緊迫し、切角の企画

構想にも手のつけられる状況ではありませんでした。それかと言って、岩園小学校の校舎を一部借用しての仮校舎は、これ以上続けることは出来ません。市御当局で苦慮して立案された計画が、打出校舎の位置に、将来必要と考えられる第五国民学校の校舎を建て、これをしばらくの間、芦屋中学の仮校舎とすることになりました。

昭和17年、仮校舎に移りましたのが、3月12日、町の北の岩園から打出の浜近くまで、生徒総掛りで机や椅子を担いで第五国民学校へ引越しました。現在の精中のある場所ですが、この校舎を当分の間芦屋中学の専用校舎として使用することになりました。以来職員生徒共に落付いて学校での生活を送り得たと思いますが、大東亜戦争の最中です。陸士海兵飛行予科練へと進む生徒も出て来、昭和19年には3年以上の学年は担任教師と共に、学徒動員で軍需工場に出動しました。1・2年の一部は西宮の農家へ、残りは学校工場で勤労作業に従事した。この頃打出校舎の一部を川西航空に学校工場として提供し、1・2年の作業場としました。この打出校舎を学校工場に提供したことが、昭和20年6月5日の校舎全焼へつながったと思えます。

### 戦局急迫の中で ——打出仮校舎全焼——

金坂 ええ、20年の6月。それがあって間もなく、私は応召しているんです。だから、焼けた時にはこちらに居りました。

司会 その日はどんな具合でしょうか？

金坂 とにかく空襲で、どうも芦屋の方がやられていると言う。当時私は本山に住んでおりましたので、詳しい状況は分からぬままに、電車は通っていないし、歩いて行ってみたら、校舎はすっかり焼けてしまつて、僅かに机が出された程度で、今福田先生がおっしゃったように、備品などは失ってしまっているような状況でした。本造校舎に焼夷弾が落ちたものだから、どうにも手がつけられなかったというのが実状だった。

司会 それは夜中でしたか。

金坂 いえ、朝でしたね。

司会 全焼でしたか。